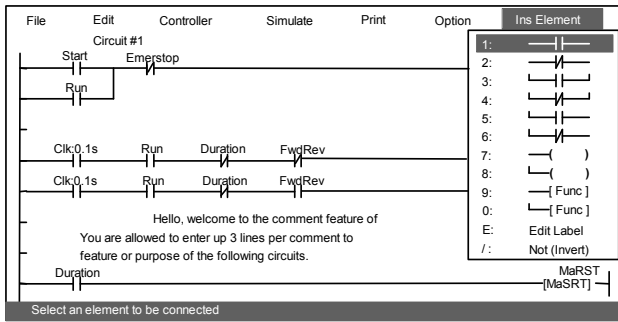
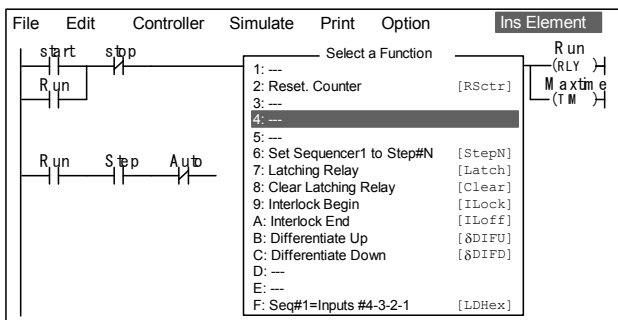


1. 内部要素メニュー [Insert Element Menu]

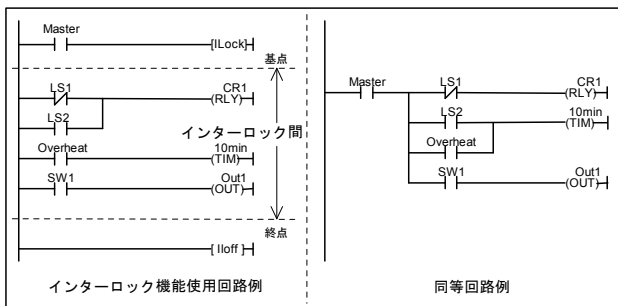


ラダープログラムの作成および編集は<Insert>キーを押してスクリーン上にポップアップされる内部要素記号からアイテムを選択します。1・2はシリアル接続のNO/NC、3・4はパラレル接続のNO/NC、5・6は複数のパラレル接続のNO/NC、7・8はコイル接続で、9・0を選択すると次の特殊コイル接続ができます。

2. 特殊機能メニュー [Special Function Menu]



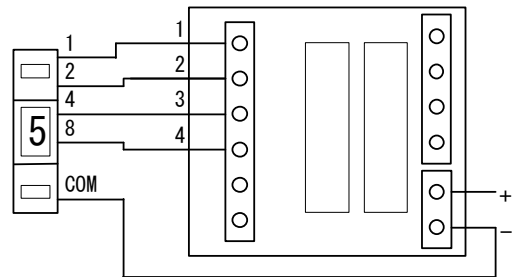
- a. [RSctr] / リセットカウンター
カウンターのレジスタの値を0リセットします。
- b. [StepN] / ステップ N
カウンター#1に設定したステップシーケンサ#1の0~31のN番目のステップ番号をセットします。
- c. [Latch] [Clear] / ラッチ・クリアー
リレー・出力ビットをラッチ命令でラッチし、クリアー命令で解除します。
- d. [ILock] [ILOff] / インターロック基点・終点
次の図のようにインターロック間（基点から終点まで）はパラレル出力したマスターコントロール回路と同様の制御ができます。



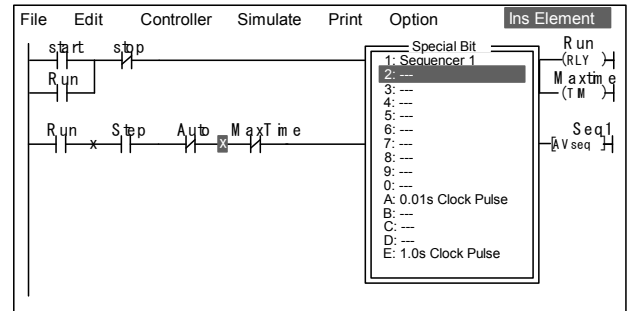
- e. [δ DIFU] / 立ち上りパルス
リレー・出力ビットがOFFからONになると、このコイルをワンスキャンタイムONします。
- f. [δ DIFD] / 立ち下がりパルス
リレー・出力ビットがONからOFFになると、このコイルをワンスキャンタイムONします。

g. [LDHex]

カウンター#1を設定して入力の1~4を次の図のように接続するとサムホイールスイッチのバイナリーコード0~16の値をカウンターのレジスタに取込めます。

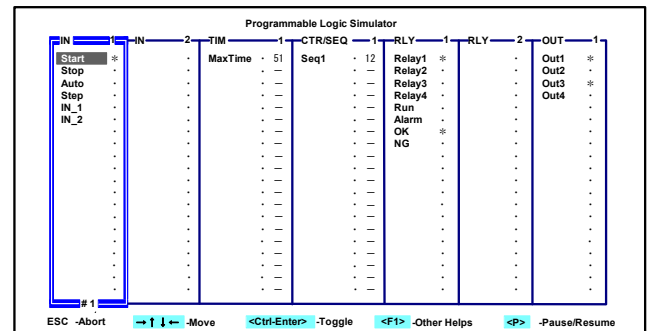


3. 特殊機能メニュー [Special Bits Menu]



- a. [Sequencer1] / ステップシーケンサ#1
E10HはSeq1:0からSeq1:31までの32ステップシーケンサをカウンター#1に設定して、Seq1:Nのそれぞれ要素を回路にNO/NC接続できます。
- b. [0.01s Clock Pulse] [1.0s Clock Pulse] / クロックパルス
10msecと1secの2種類のクロックパルスをNO/NCのラダー回路に設定できます。

4. リアルタイム シュミレーション



作成および編集したプログラムをすぐにTRiLOGIのシュミレーション機能でプログラムの確認ができます。シュミレーション画面は2入力・1タイマ・1カウンター／シーケンサ・2内部リレー・1出力の7カラムから構成され、各回路のI/Oの動作状態によって、右端のインジケータが赤色の“*”でON、“-”でOFFを表示します。任意に動作させたいラベルにハイライトバーを移動させ<Inter>キーを押してトグル切替えると、このラベルの要素を動作／非動作状態にできます。

5. オンラインモニターコントロール

E10HとPCのRS-232Cポートに専用OPTO232Cコンバータケーブルを接続して、ターゲットPLCの各I/O、タイマ値、カウンター値をオンラインでモニターし、各I/Oを強制的にPC上からコントロールできます。

“We assist advancing technology expansion”

有限会社 アテックス ジャパン

〒221-0001 神奈川県横浜市都筑区中川 1-17-11 唐戸第一ビル 2F
TEL 045-306-8481 FAX 045-306-8485

販売代理店